



岩井木材株式会社

京都は木造建築都市～木の文化を発信～

当コーナーでは、商品の売上の一部が京町家まちづくりファンドへの寄附となる寄附付き商品を取り扱っていた
だいている企業の皆様方の、京町家や京都のまちづくりに対する思いをご紹介します。

今回は、北区紫野で材木業を営まれている岩井木材株式会社 代表取締役社長 岩井清さんにお話を伺いました。
岩井さんは、地域の活動では紫式部の墓守もしながら、まちあるきを企画されるなど積極的に活動されています。



岩井 清さん

岩井木材の建物

大正の初め頃、祖父の代に材木商を創業しました。明治22
年頃の大日本帝国測量部作成の京都市地図に、大徳寺の南辺り
にぽつんと建っている建物があります。おそらくその頃にすでに
この建物はあったのではないかと考えられます。



岩井木材の建物(明治中期の町家) 倉庫の様子

社会貢献活動について(京都、景観、京町家等への思い)

阪神大震災でのボランティア・消防団活動等を経験して20
年前に建築資材の備蓄を始めました。京都でもなにか起こっ
たら水・食料・薬・トイレの次に安心して寝られる床材等を
備えておくことが重要です。

京都の町にある古い町家等が燃えてしまった時、修復に使う
ための木材も備えておかないと木造の文化が途絶えてしまう危
機感を持っています。

熟成木材について

世界に誇る木造建築都市京都は、世界中からの観光客でに
ぎわっています。世界遺産の有名な社寺だけでなく、京都市
民の暮らしの代表でもある京町家を残し、木の文化を正しく大
切に伝え、次の世代へ受け継いでいきたいと考えています。京
都の木文化とはそれぞれの木の長をいかし適材適所に使
い分けること、それを脈々とつないできていることで、京都の
木の良さが生きてきます。

にも良くないものもある状況で、京都でこそ「ほんまもん」の無
垢の木を使っていたらいいと思います。京町家のように100
年以上もたせる木材は、10年～20年以上自然乾燥させた「熟
成木材」が必要なのです。高温人工乾燥木材は、木材の材料と
しての良さが耐久性が損なわれ、寿命の短い建物になってしま
います。山の木が使える木材として市場に出てくるまでに長い年月
がかかります。このようなことをもっと知っていただくことが京の
まち、景観を残していくことにつながるのではないかと考えます。

京町家まちづくりファンドにご協力いただいた理由

この明治中期の町家をどのように改修すればよいか考える
ようになった頃に、京町家まちづくりファンドを知りました。
京都の景観を守り伝えていくまちづくりファンドの思いに通じ
るものがあると感じました。

今後の展開について

この建物を京都市、おもに市北部、北区での木の文化発信場
所にしたいと考えています。ここが情報発信の場になり、市民
も専門家も集まり、家の相談などもできるような地域の核とな
る場所になりたいと思います。

◆寄附付き商品の内容：京都市産木材の販売価格の1%相当額が京町家まちづくりファンドに寄附されます。
取扱場所：岩井木材株式会社 京都市北区紫野雲林院町13・14 TEL：075-432-3181
※木の歴史・文化・景観・まちづくりにご関心がある方は、ぜひ、お気軽にお立ち寄りください。

平成29年度賛助会員募集中!

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の
みなさま

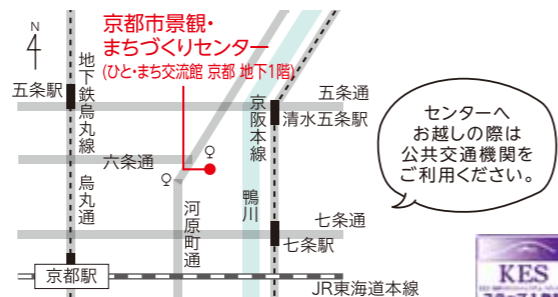
<td> <td> <td> <td> </td></td></td></td>	<td> <td> <td> </td></td></td>	<td> <td> </td></td>	<td> </td>		
<td> <td> <td> <td colspan="2"></td> </td></td></td>	<td> <td> <td colspan="2"></td> </td></td>	<td> <td colspan="2"></td> </td>	<td colspan="2"></td>		

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
E-mail: machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP: http://kyoto-machisen.jp



Facebook HP



センターへ
お越しの際は
公共交通機関を
ご利用ください。



公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

京まち工房

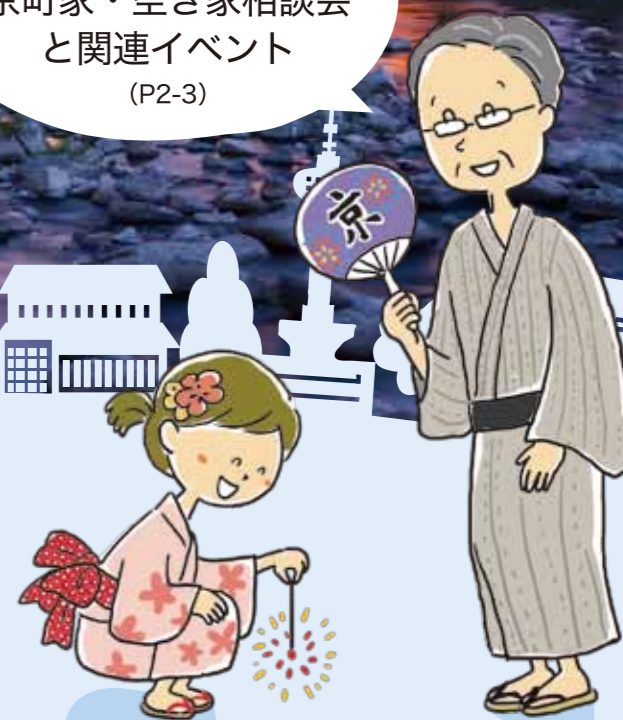
79

パートナーシップで
進めるまちづくり!



特集

京町家等継承ネット
京町家・空き家相談会
と関連イベント
(P2-3)



四條町大船鉾会所改修竣工記念式典.....	4
京あるき in 東京.....	5
地域まちづくり・京町家の専門家紹介.....	6
私と京都/景観・まちづくり大学 特別編/ スタッフのつぶやき.....	7

京町家等継承ネット

京町家・空き家相談会 と関連イベント

平成28年度に開催した京町家等継承ネット主催の「京町家・空き家相談会」と関連イベントの様相をご紹介します。京町家・空き家を所有、あるいは居住していらっしゃる皆様が、気軽に京町家に関わる専門家に相談する機会として「京町家・空き家相談会」を開催いたしました。また、京町家という魅力的な空間を用いて、さまざまなイベントを開催するポップアップイベント、相談員としてご参加いただいた専門家の皆様を主な対象とした研修会、京町家での新たな取組の成果を発表した「京都市指定有形文化財 長江家住宅の継承」についてもあわせてご報告します。

京町家・空き家相談会

- 第1回**
日時 平成28年11月19日(土) 13:00~17:00
会場 京都市景観・まちづくりセンター
 - 第2回**
日時 平成29年1月14日(土)、15日(日) 10:00~15:00
会場 しまだいギャラリー(中・御池通東洞院北西角)
 - 第3回**
日時 平成29年3月4日(土) 10:00~15:00
会場 京都リサーチパーク(KRP) (下・中堂寺栗田町93番地)
 - 東京相談会「住みたい 知りたい 京町家」**
日時 平成29年2月26日(日) 15:30~17:30
会場 移住・交流情報ガーデン (東京駅 八重洲口)
- 主催** 京町家等継承ネット、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
後援 京都市

相談会では、「京町家を改修したいが、誰に相談すればよいかわからない」、「京町家を次世代に継承したい」、「空き家となっている京町家を活用したい」、「権利関係が複雑になってしまっている」など、相談内容は多岐にわたりました。世代を超えて継承されてきた京町家だからこそその継承にまつわる悩みや不安に、大工、建築士、宅建業者、税理士、司法書士、土地家屋調査士、地元金融機関など、さまざまな専門家が助言し、情報提供を行いました。相談会が終了した後も、引き続き情報提供や、専門家が現地を訪れる「専門相談」を実施し、よりきめ細やかな対応を行いました。

京都市内での3回(4日間)の相談会、および東京相談会の合計の相談件数は、事前予約制の専門相談が38件となり、その他に事前予約なしの一般相談にも随時対応いたしました。



第2回相談会の様子



第3回相談会の様子

「京都市指定有形文化財 長江家住宅の継承」立命館大学研究発表会

- 日時 平成29年2月23日(木) 19:00~21:00
- 会場 京都市景観・まちづくりセンター ワークショップルーム
- 講師 高木 良枝氏 (長江家住宅顧問、立命館大学客員研究員)
佐藤 弘隆氏 (立命館大学大学院文学研究科 博士課程後期課程)

研究発表会では、継続的に京町家や祇園祭に関する調査研究、および学生による長江家住宅の継承や公益財団法人祇園祭船鉾保存会の山鉾行事をサポートされてきた立命館大学のご協力のもと、長江家住宅の継承の経緯、祇園祭との関係からみる評価、データベースについてなど、現時点での成果と課題を研究者より発表していただきました。



発表会の様子

「京町家に流れる時間 暮らし&しごと」トークイベント&ポップアップストア KYOTO MISE

- トークイベント**
日時 平成29年1月14日(土) 15:30~17:00
会場 しまだいギャラリー(中・御池通東洞院北西角)
登壇者 綾 利洋氏(オーラボ株式会社代表取締役、クリエイティブディレクター、デザイナー)
森 紗恵子氏(つづれ織工房 おりこと)
タナカ ユウヤ氏(株式会社ツナグム取締役、京都移住計画)
- 主催** 京町家等継承ネット、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター
- 後援** 京都市
- 協賛** サッポロホールディングス株式会社



- KYOTO MISE**
日時 平成29年1月14日(土)、15日(日) 11:00~18:00
会場 ①ブックフェア YUY BOOKS&MAGAZINES 竹内邸(中・夷川通御幸町東入松本町576-1) (関西で活動する独立系書店によるブックフェアが行われ、光と風の移るいを感じる空間で、さまざまな本を手にとっていただける場を提供しました。)
②ポップアップお土産ショップ 『マガザンキョウトポップアップ』 蔵のギャラリー御所南 TOMORROW(中・御幸町通表川下る達磨町616) (『泊まれる雑誌マガザンキョウト』のプロデュースによる、京都土産の新定番が一堂に会した期間限定のお土産屋が開かれました。)

「京町家・空き家相談会 in しまだいギャラリー」の関連事業として、「京町家に流れる時間 暮らし&しごと」と題して、京町家の魅力を住み手の視点からご紹介するトークイベントと、京町家の新たな活用の可能性を次世代の文化産業の担い手に広め、今後の京町家の継承・活用の可能性を発信する「ポップアップストア(期間限定の仮店舗) KYOTO MISE」を開催しました。

トークイベントでは、相談会終了後のしまだいギャラリーを会場に、京町家に新たに移り住み、日々の暮らしと仕事を始められた3人の登壇者に、京町家に移り住まれた経緯、京町家でのお仕事の様子などをご紹介いただきました。広々とした京町家の広い土間を会場にして、サッポロホールディングス株式会社様よりご提供いただいた飲み物を片手に、くつろいだ雰囲気の中トークが繰り広げられました。



トークイベントの様子



ブックフェアの様子

京町家・空き家相談会 相談員研修会

- 日時 第1回 平成28年12月11日(日) 9:30~16:45
第2回 平成28年12月18日(日) 9:30~16:45
- 会場 らくたび京町家 (旧村西家住宅・景観重要建造物・国登録有形文化財) (中・泉正寺町333蛸薬師通高倉西入る北側)
- 講師(講義実施順)
関岡 孝繕氏(京都市都市計画局まち再生・創造推進室 京町家保全・活用課長)
田谷 隆行氏(株式会社京町家の代表取締役)
内藤 卓氏(京都司法書士会副会長)
堀 栄二氏(京都府建築工業協同組合総代)
木下 龍一氏(一般社団法人京町家作事組代表理事)
内田 康博氏(一般社団法人京都府建築士事務所協会副会長)
辻本 尚子氏(税理士・不動産鑑定士)
古賀 芳智氏(認定特定非営利活動法人古材文化の会理事)
吉田 光一氏(京町家居住支援者会議事務局長)
西村 孝平氏(都市居住推進研究会会長代行)

京町家・空き家相談会の開催にあたり、相談対応に必要な京町家の保全・再生・活用に関わる基礎知識を学ぶ研修会を2日間にわたり10講座を連続して開催しました。会場は国登録有形文化財の京町家、講師にはかねてより相談員や支援専門家、実務者として活躍されている方をお迎えした特別な研修会となりました。



相談員研修会の様子



四条町大船鉾会所

改修竣工記念式典

祇園祭の山鉾の一つ、大船鉾の会所が京都市下京区四条町（新町通四條下ル）に完成し、平成29年4月15日に竣工記念式典が開催されました。会所の改修は、京都の伝統的木造都市住宅「京町家群」の保全を目的とした「京町家再生プロジェクト」の第3期の取組として、ワールド・モノメント財団（米国、World Monuments Fund:WMF、以下「WMF」と表記）からの支援、景観重要建造物として京都市からの助成を受け、株式会社LIXIL 京都支店をはじめ、多くの方々のご支援をいただき竣工の運びとなりました。伝統構法で改修し、祭事の場にふさわしい意匠や機能を備えた会所が生まれました。



四条町大船鉾会所外観

鉾の部材 出しやすく工夫



見学会



ベンガラ塗りワークショップ

祇園祭の山鉾町の会所は、神事、山鉾の組み立てや、祇園囃子の稽古に使われます。大船鉾は元治元年（1864）の「蛤御門の変」で一部を残して焼失し、山鉾巡行に参加できない状態が続き、会所も手放しました。しかし、大船鉾は平成26年、150年ぶりに見事に復興して巡行に参加することとなり、会所の必要性を検討されていました。その後、四条町町内の前所有者のご厚意により、公益財団法人四条町大船鉾保存会が平成27年に会所を購入・取得することができ、今回のプロジェクトが始まりました。この大船鉾の会所は昭和8年に建てられ、元は呉服店でしたが、平成28年8月から改修を始め、2階囃子のため鐘吊金物を取り付け、祭りのお飾りを置く床の間をつくったほか、玄関横の外壁を可動式の平格子にするなど、鉾の部材が運び出しやすいよう工夫しました。この改修にあたり、保存会、特定非営利活動法人京町家再生研究会、一般社団法人京町家作事組、当財団が定例で集まり、主に外観意匠や内部造作などの改修計画に関する事、見学会やワークショップなどの行事についても協議を重ねました。

完成祝い祇園囃子を披露

式典には四条町町内をはじめとする約100名が参加して完成を祝い、祇園囃子も披露されました。保存会の林邦彦理事長は、「後世の人達に町会所があって良かったと言われるよう、大切に使っていききたいと思います」とご挨拶されました。WMFの稲垣光彦日本代表は「みなさんの思いが実って、無事竣工しました。思いの輪を広げて、京町家の再生につなげていきましょう」と、お祝いの言葉を述べられました。門川大作京都市長や公益財団法人祇園祭山鉾連合会の方々もお祝いにつけ、晴れやかな式典となりました。



鏡割り



植樹

京都の魅力、東京にも伝えます！

京あるき in 東京



当財団では京あるきin東京2017の取組として、「京都創生連続講座」と「京町家講演会&相談会」を開催しています。京都の美しい町並み景観や蓄積されてきた文化、京町家での豊かな暮らしについて東京で発信する機会となりました。

京都創生連続講座 in 東京 京町家トーク

「祇園祭と京町家」

日時 平成29年2月24日（金） 13:00~15:00
会場 大和ハウス東京ビル（東京都中央区飯田橋3-13-1）
登壇者 吉田 孝次郎氏（京都生活工芸館無名舎舎主）
増井 正哉氏（京都大学大学院教授）
協賛 株式会社LIXILグループ、彌樂自動車株式会社

前半の基調講演では、「町衆が育む京の美意識」をテーマに、京都生活工芸館無名舎舎主の吉田孝次郎氏からお話をうかがいました。お住まいの京町家を、建築当初の姿に復元したことが美意識の発露であり、四季折々の床の間の飾りや、祇園祭の屏風飾り、建具替えて劇的に変わる家の表情、自然を屋内に取り込んだ庭など、日々の生活から美意識が磨かれていることをお話しされました。後半は、京都大学大学院教授の増井正哉氏を聞き手に迎え、「京のくらし、まつり、年中行事」をテーマに吉田氏と対談が行われました。祭りには、その土地の生活や思想などが表れること、町家は単なる生活空間ではなく、祭りの舞台となって京の年中行事を支え、文化を継承していることが語られました。また、吉田氏の自宅前に建てられた大型町家跡のホテルが、景観になじむデザインを自ら取り入れたエピソードを交え、無名舎を再生したことが、地域の町並み保全に大きな影響を与えたことなど、京町家の可能性や、伝統文化に対する思いについて、お話を聞くことができました。

300名近い方がご来場され、京町家での暮らしや年中行事など、奥深い京文化の魅力に耳を傾けていらっしゃいました。

基調講演に先立ち、当財団から「京町家まちづくりファンド」の取組として、京町家の改修事例、ファンドの普及・寄附拡大の取組について報告を行いました。



対談の様子

講演会

「京町家の心豊かな暮らし」

日時 平成29年2月26日（日） 13:30~15:00
会場 移住・交流情報ガーデン（東京都中央区京橋1-1-6 越前屋ビル1F）
登壇者 秦 めぐみ氏（京都秦家主宰）
島井 佐枝氏（KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 サテライトイベント KG+ 実行委員）
司会 吉田 光一氏（京町家居住支援者会議 事務局長、株式会社フラットエージェンシー取締役会長）
共催 京都市、京町家等継承ネット、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター



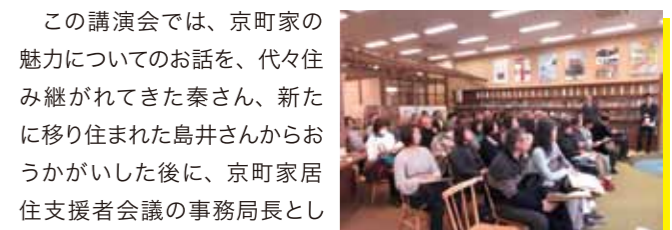
秦めぐみ氏



島井佐枝氏



吉田光一氏



会場の様子

この講演会では、京町家の魅力についてのお話を、代々住み継がれてきた秦さん、新たに移り住まれた島井さんからお話を聞いた後に、京町家居住支援者会議の事務局長として京都で町家の保全に尽力されている吉田さんを司会に迎え、お二方に対談していただきました。

秦さんからは、京町家での日常生活の様子を写真とともにご紹介いただきました。先人の知恵が息づいた京町家での暮らしが、自然や社会との交流の感覚を作り上げていることについてお話いただき、暮らしの中で育まれる生きた知恵を学び、未来に継承できるものを選び取る工夫が必要であるとお話いただきました。

島井さんからは、京町家を改修し、生活を作り上げていく過程についてお話いただき、京町家での暮らしや子育ての様子、周囲の方々の反応などについてご紹介いただきました。また、実行委員として活躍されている『KYOTOGRAPHIE 京都国際映画祭』やディレクションを担当するサテライトイベント『KG+』についてもご紹介いただきました。

最後に、吉田さんがお二方に率直な感想や質問を投げかけ、京町家保全の課題や京都における町家を取り巻く現状などについても触れながら、講演会をまとめていただきました。

気づいてほしい 地域の魅力

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、豊富な経験や知識、また熱い思いをもって京都のまちに関わっておられる専門家の方々をご紹介します！

今回はこの方！



小林 明音氏 (PI-produce, NPO法人京都景観フォーラム事務局長、Deepest Kyoto Tour 共同代表、七條大橋をキレイにする会 共同代表 など)

金沢大学工学部土木建設工学科卒業。富山県庁、建設コンサルタント会社を経た後、フリーコーディネーターに。京都市景観・まちづくりセンターで2年間経験を積み、現在、京都を拠点に、各種事務局、講座等の企画運営を行う。現在の興味は、目的に応じた適切な組織運営と、柔軟な働き方を実現すること。富山県出身。41歳。技術士。夫と小学3年生の娘と3人暮らし。

私が今の仕事に至ったきっかけは、地方公務員の経験でした。道路計画の住民説明会や、用地買収の現場などに立ち会い、住民参加の在り方に興味を持ち始めます。公共事業は行政が決定権を持ちますが、利用者や住民とのコミュニケーションがもう少し効果的に行われても良いのではないかと、思いました。そのころ土木業界では、PI (Public Involvement) と呼ばれる住民参加型事業が取り入れられており、私もファシリテーションなどを学び始めました。

結婚を機に5年務めた地方公務員を退職し、大阪の建設コンサルタント会社で働き始めました。主に、住民参加型事業の企画運営などを担当し、毎日充実していましたが、ふと、通勤途中に、大阪駅の構内を黒い波がうねるように進むサラリーマンの塊を見たとき、こんな風に生きたくない、と強く感じました。

そんなとき、夫と観光で訪れた京都に、勢いでマンションを購入します。悶々と続けていた仕事を辞めてフリーになり、京都で暮らし始めてすぐに子供も授かりました。仕事と家庭のバランスを見つけながら、楽しく豊かに生きることを第一に、肩書のない自分の役割を実践しながら確立していこう、と日々取り組んでいます。



地域景観づくり講座

現在、仕事の多くを占めるのはNPO法人京都景観フォーラムの事務局です。関わり始めてちょうど5年。NPO法人の立場を活かした活動や、多分野の専門領域からのアプローチなど、さまざまな可能性を感じています。さらに、可能性を実績と信頼に変えていくためには組織基盤が重要、ということにも気づき、法人運営を0から学ばせていただいたことが今では一番大きな経験になっています。平成28年度には、京都市景観・まちづくりセンターと協同で地域景観づくり講座（主催：京都市）を企画運営させていただきました。主体的に景観まちづくりに関わる方を増やすことを目的に、受講者や実践者との交流や気づきを大切に講座構成を心がけました。

私は、さまざまな活動で事務局の役割を担うことが多いのですが、原点は土木にあります。少しでも恩返しできれば、と、現在、七條大橋を切り口に土木の奥深い魅力を伝える活動もしています。縁もゆかりもない京都に、憧れて移り住んだ私。できることはほんの僅かですが、次の世代にも私が日々感じている素晴らしい京都を引き継いでいきたい。同じ仕事は2つとありません。自分の価値観に合う仕事をお受けしながら、その目的に応じたやり方を丁寧に見出し、実績を積んで、これは小林に任せてみよう、と思いついていただけのようなコーディネーターでありたいと思います。



七條大橋の魅力を伝える活動をしています

私と京都



京町家情報センター事務局長 城 幸央

「はじめての町家の日」

京町家情報センターは、平成14年設立以来、京都の地元の登録不動産業者会員と共に、現存する京町家が保全再生され、有効に活用されることを目的として活動しております。

この京町家情報センターで、3月8日を「町家の日」として、日本記念日協会にて登録・制定させていただきました。3月を表わす英語March（マーチ）、8（ヤ）という語呂合わせです。さまざまなイベントを通して町家に触れていただき、そこから町家や町の景観について考えるきっかけとなり、町家の保全・再生が市民の方から広がっていけばという思いで制定し、活動しています。

はじめての「町家の日」となった今年は、プレイベントとして3月4日～12日の町家ウィークに、京都のさまざまな町家関係者にご協力いただき、23会場で25イベントを行いました。気軽なお茶会や建築士によるお話会、京町家の整理・改修の際に出てきた骨董や建具などを売るガラクタ市、今後販売予定で改修中の京町家物件にカフェや雑貨店・パン店を集めたマルシェ、町家を撮影した写真展、琴を奏でながら歌うコンサートなどを通して、町家の空間を体感していただきました。町家を会場として使わせてくださったオーナーの方にも「いる

いるな方に見てもらい、楽しかった。町家の繋がりができた」などのお声をいただきました。また、京都タワーにご協力いただき、町家の日を記念して、市民の皆様からの公募で決まったカラーでのライトアップを行いました。

町家の保全再生の活動をしていますと、どうしても法的な問題や予算・保全再生などの難しい話や専門的な話になります。それだけでは、保全再生に積極的になれないのではないかと考えています。町家を大切に残されているオーナーの方に、維持管理の大変な話とは別に、「町家を残して良かった。楽しめた」と思ってもらって機会を作っていくことも大切です。

この町家の日のイベントを通して、町家オーナーの方にもその他の方にも、町家を残し保全再生していくことに、楽しく前向きな意識を持っていただき、もっともっと市民の方から町家を残していくべきだという機運があがってくればと思います。

町家は京都だけではなくありません。全国の古い町並みの残る地域で、3月8日には町家の日が各地で自由に開催され、全国で町家・景観のことを考える日、町家を楽しむ日として広がっていけばと思います。

平成29年 3/4(土) 14時～17時
景観・まちづくり大学 特別編
クリエイティブタウン 島原の魅力再発見!

実施場所 京都市下京区花屋町通大宮～西新屋敷界隈
会場 itonowa、ギャラリーたんたん、ギャラリーのざわ、西澤邸

3月8日（町家の日）を目前にした3月4日、下京区島原界隈にて「景観・まちづくり大学 特別編 クリエイティブタウン 島原の魅力再発見!」を開催しました。

各会場とも子供からお年寄りまで多くの参加者でにぎわいました。4会場すべてを回り、各会場で説明を聞いたりイベントを楽しんだりとゆったり過ごす方が大多数で、廻り終えた方からは、「色々な町家を見学できて楽しかった」「新しいまちづくりの動きで地域に活気がよみがえった」「説明者のお話や改修事例がとても参考になった」などのご意見をいただきました。



スタッフのつぶやき

スタッフM.K.

趣味でロードバイク（自転車）に乗っています。学生の頃から乗っていますので、かれこれ20年以上になるでしょうか。



京都は三方を山に囲まれており、少し走れば山の中。昔は山道を自転車で走るのちっとも楽しくなかったのですが、最近ではあえて「トレーニング」と称して走りに行ったりします（何が楽しいの？とよく聞かれますが……）。

最近、気になっているのは田舎道を走っていると、長らく使っていないのでは？と思われる民家の多いこと。京都市内でも空き家が多いと聞きます。まちセンでの仕事を通じて、空き家になっている京町家の減少に少しでもお役に立てればと思います。

お知らせ

- 平成29年度京都景観エリアマネジメント基礎講座受講生募集中! <http://www.kyotokeikan.org/>
- 第1回七條大橋フォトコンテスト募集中! (募集期間: H29.6.1~7.15) <https://shimisen-kyoto.org/event/4646>